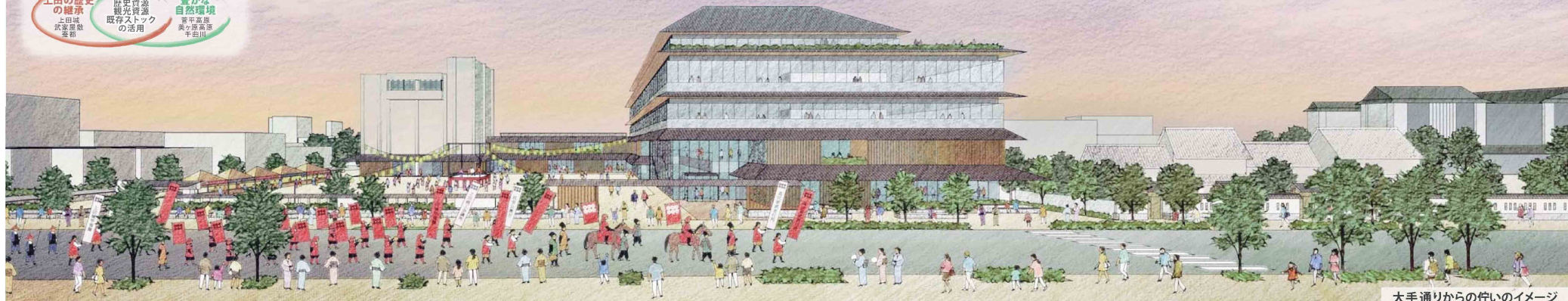


上田の歴史と未来を紡ぐ庁舎

城下町上田の歴史を継承した「歴史まちづくり」、上田の豊かな自然環境を活かした「環境まちづくり」を基本に歴史や観光資源・既存ストックを最大限活用し、これからの時代に求められるコンパクトシティの核となる庁舎をつくりまします。

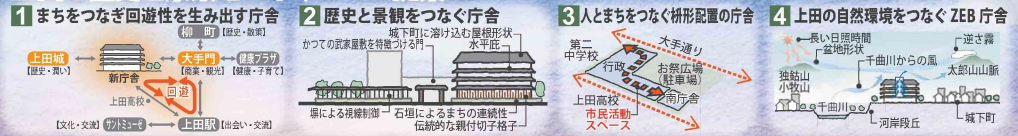
目指すべきコンパクトシティの実現

歴史まちづくり 環境まちづくり



大手通りからの佇いのイメージ

上田の歴史と未来をつなぐ4つの提案



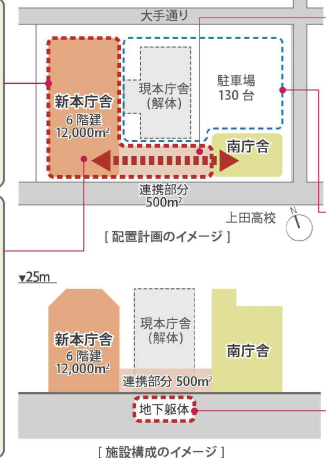
基本計画に対する考え方

基本計画を踏まえ、A案・A2案のメリットを活かしながらさらに発展させた今回提案の5つのポイント

1 1期工事で庁舎機能を全て整備
 連携部分も含め1期工事のみで庁舎機能を全て整備することで竣工後すぐに新庁舎と南庁舎の連携利用が可能になります。また全体工期の短縮と共に合併特別債を最大限活用します。

基本計画案	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
1期	1期	2期		
今回提案	1期	18ヶ月前倒し		

2 本庁舎に行政機能を集約 (6階建・12,000㎡)
 階高縮減・屋根形状の工夫により、6階建、12,000㎡の面積を確保し、市民の利便性と業務効率向上の両立を図ります。また、仮設対応期間の短縮を図ります。



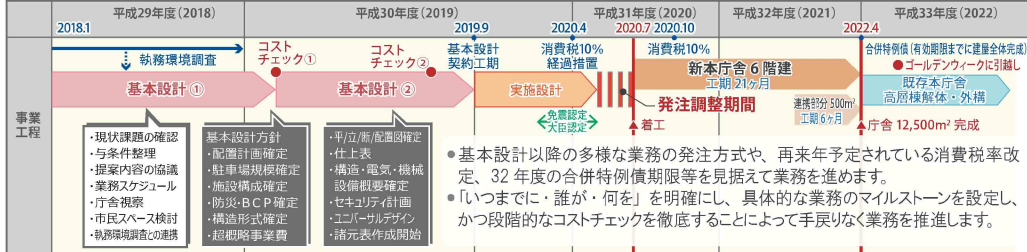
3 2棟間に市民スペースを配置 (2階建・500㎡)
 連携部分(2階建・500㎡)を1期工事で建設することで、2棟間の連絡通路を兼ねた新たなにぎわいと交流空間を創出します。またインフラの盛替えをスムーズに行うことが可能です。

4 敷地内に130台の駐車場を確保
 連携部分の建築面積を最小に抑えることで基本計画A2案では100台しか計画できなかった駐車場を130台確保できます。

5 既存地下躯体の有効利用
 現庁舎地下躯体を新本庁舎のクールビット等に有効活用し、工期・コストの削減と共にZEB庁舎への展開につなげる計画とします。

業務工程・業務実施上の配慮事項

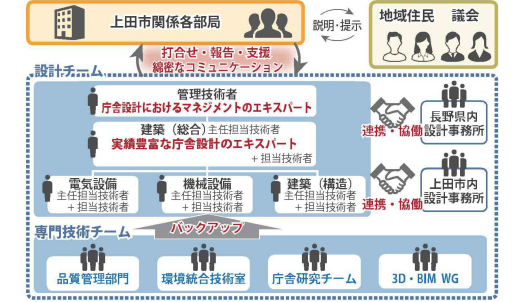
従来方式、DB方式、ECI方式等、多様な発注方式に対応できるスケジュール



業務への取組体制・設計チームの特徴・設計上の配慮事項・業務実施上の配慮事項

豊富な実績を活かした手戻りのない業務遂行

- 1 庁舎建築のエキスパートを配置
 - 庁舎など公共建築の設計に精通したエキスパートを中心に設計チームを編成し、経験やノウハウを設計に反映します。
- 2 地域特性に精通した県内・市内設計事務所との連携
 - 長野県や上田市の風土を熟知した実績豊富な地元設計事務所と協働することで、地域に根ざした土地にふさわしい庁舎をつくりまします。



3 長野県内の実績を活かした設計
 長野県における公共施設の実績を活かし、地域に根ざしたこの土地にふさわしい庁舎を実現します。

4 補助金採択支援の豊富な実績
 省CO2先導事業の採択実績

- 「住宅・建築物CO2先導事業」に12件採択された弊社の豊富な経験を活かし、「サステナブル建築物先導事業」による国交省補助金を活用し、上田市の財政負担を軽減します。

ZEB実現に向けた先進的エネルギー建築物実証事業への対応
 環境共創イニシアチブ(SII:経産省の委託機関)から、ZEBプランナーとして登録されたことによる、「ZEB実現に向けた先進的省エネルギー建築物実証事業」への応募資格を活かします。

上田市の気候風土を活かした設計

- 1 上田市の風土に根差した設計
 - 上田市の盆地特有の気象条件や千曲川などの豊かな自然環境を活かした施設計画を行います。
 - 光(自然採光)、風(自然通風)、水(雨水利用)、熱(地中熱利用)等、自然エネルギーを有効活用し上田を代表する環境配慮型の施設とします。
- 2 地場産材の有効活用と、上田らしさを活かした設計
 - 県産材のカラマツや上田紬、真田紐、うだつ、親付切り格子などを外装や構部材、内装材、家具などに使用します。



関係者と「ともにつくる」密着型プロセス

- 1 複数案の比較検討によるベストプランと合意形成
 - 複数案の比較検討を随時行いながら確実な合意形成と上田市に最適な施設を実現します。
- 2 わかりやすい資料でコミュニケーションを活か化
 - 模型、BIMによる3Dパースやウォークスルーツール等のさまざまな手段を用いてわかりやすい資料を作成し、イメージを共有しながら設計を進めます。

3 市民参画によるワークショップ
 市民意見を引き出すためのファシリテーターとして参画し、市民スペースの使い方を中心に意見交換を行い、期間内に確実に取りまとめ、計画に反映します。

徹底したユニバーサルデザイン

- 1 わかりやすい施設構成と視認しやすいサイン計画を徹底し、高齢者や子連れの方も含むすべての来館者が利用しやすい計画とします。
- 2 施設内で床の段差をなくす等、高齢者や車椅子使用者が訪れやすく快適に利用できる施設を計画します。